

日時 令和5年8月22日(火)

午後2時00分～午後4時00分

場所 市民活動サポートセンター北ラウンジ

第 3 回

さいたま市市民活動推進委員会

会 議 録

1 開会

2 議題

(1) 基金団体登録審査について

(2) 市民活動及び協働の推進について

3 その他

4 閉会

さいたま市市民局市民生活部
市民協働推進課

出席者名簿

委員 (50音順)	渥美	翔 (公募により募集した市民)
	阿部	成男 (市民活動団体の代表者)
	大木	洵人 (公募により募集した市民)
	大塚	恵利子 (市民活動団体の代表者)
	岡	志寿子 (公募により募集した市民)
	篠崎	正彦 (学識経験を有する者)
	鈴木	俊治 (学識経験を有する者)
	山中	亜弓 (公募により募集した市民)
	谷崎	美智子 (公募により募集した市民)
	平井	まゆみ (大学又は事業者の代表者)
	平野	直 (市民活動団体の代表者)
	丸屋	美智代 (市職員)
	山形	華子 (市民活動団体の代表者)
	山口	恵美子 (市民活動団体の代表者)
	事務局	浅見
稲村		嘉一 (市民協働推進課課長補佐兼係長)
高橋		隼 (市民協働推進課主事)
欠席者	田中	心彩 (市民活動団体の代表者)
	濱中	真人 (大学又は事業者の代表者)
	久間	亜紀 (公募により募集した市民)
	藤枝	陽子 (市民活動団体の代表者)
	堀川	修平 (学識経験を有する者)
	山本	和広 (市民活動団体の代表者)

1 開会

- 開会の挨拶
- 欠席の確認
- 資料の確認
- 議題の確認
- 傍聴の確認

2 議題

■議題1 基金団体登録審査について

○篠崎委員長

基金団体登録審査について事務局から説明をお願いします。

○事務局

《資料2-1～2-3-3について説明》

○篠崎委員長

御質問いかがでしょうか。今回はマッチングファンドの団体登録の申請が3件あり、皆さんに御審議いただきたいということでございます。

最初は2-3-1、特定非営利活動法人子育て応援隊むぎぐみについてですけれども、事務局で表1の登録要件を満たしているかの確認は済んでいるということですね。

○事務局

はい。

○篠崎委員長

ありがとうございます。かなり規模の大きな活動をされている団体さんですが、皆さんいかがでしょうか。あるいは御質問等ありましたらお願いします。

ちなみに今回の3団体は、初めて登録するということでしょうか。

○事務局

はい。3団体とも、初めての登録を希望されている団体です。

○篠崎委員長

特定非営利活動法人子育て応援隊むぎぐみですけども、皆さんから御意見、御質問ございますでしょうか。

では、5つの登録要件を踏まえ、登録としてよろしいでしょうか。

○各委員

はい。

○篠崎委員長

ありがとうございます。

続きまして二つ目の団体は、さいたまつくりての輪です。御質問、御意見をお願いします。

問題がなければ、さいたまつくりての輪は、5つの登録要件を満たしているのので、登録としてよろしいでしょうか。

○各委員

はい。

○篠崎委員長

ありがとうございます。

最後は、さいたま市高校生ファシリテーター会議。まだ小規模な活動で、若い方たちが自主的に、小中高生などを含めたワークショップの場を開催している団体です。令和2年に設立した団体ということで、まだ新しい団体ですね。

御質問、御意見無しということで、登録の要件を満たしているのので、登録としてよろしいでしょうか。

○各委員

はい。

○篠崎委員長

ありがとうございます。

■議題2 市民活動及び協働の推進について

○篠崎委員長

続いて、二つ目の議題です。市民活動及び協働の推進について、前回と少しやり方は異なりますが、ワークショップにより意見を出し合っ、最後はテーブルごとに発表を行うということになっています。

それではワークショップの方法、進め方について事務局から御説明をお願いします。

○事務局

説明の前に、今回初めて参加される山口委員が到着しましたので、自己紹介をお願いしたいと思います。

○山口委員

皆さんこんにちは。社会保険労務士をしております山口恵美子と申します。3回目にして、初参加で申し訳ありません。

仕事としては、社会保険労務士と行政書士をしています。委員会での立場的には、NPO法人さいたま起業家協議会の副理事長をされており、そちらの関係で参加させていただいております。また皆様からいろいろと教えていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○篠崎委員長

それでは、ワークショップの進め方について事務局から御説明をお願いします。

○事務局

《資料3について説明》

○篠崎委員長

今、事務局から御案内がありましたけれども、前回のまとめが貼ってありますので、後で御覧いただければと思います。前回のワークショップでは、いろいろな御意見があり、共通することとしては、情報をどのように周知していくか、その方法をどうするかというような意見もありました。

一方でいろいろな市民活動の定義とか、或いは今回のこの委員会全体を通してなのですが、それぞれ活動しているグループがどのように活動の幅を広げていけるのか、特に活動を担っていただける方々をどのように増やしていけるかということも意見に挙がりました。

或いは、これまで活動の運営側にあまり参加出来なかったような人たち、年代でいうと子育て世代だったり、或いは大学生、高校生というかなり若手の方など、そういったところまで、どうやったら活動を広げていけるのかというのもこの委員会で皆さん御意見を出し合って、委員会の最終的な提言につなげていけたら良いかなと考えております。

ワークショップの作業の中で、皆さんから積極的にいろいろな御意見を出していただければと思います。

資料3について御質問を伺いますが、いかがでしょうか。

では続きまして、資料4について事務局から説明をお願いします。

○事務局

《資料4について説明》

○篠崎委員長

今日、限られた時間の中でこの問いを全部やるのは、なかなか大変だと思いますけれど、逆に皆さん、自由にいろいろな意見を出していただいて、普段の活動をされている中で考えたこと、感じたことを御発言いただくと、それに対するきっかけやポイントみたいなものが出てくるのではないかと思います。

御質問あれば伺いたいと思います。

続きまして、具体的な今日のワークショップの進め方は、資料5でございますけれども、事務局から説明をお願いします。

○事務局

《資料5について説明》

○篠崎委員長

今回もグループに分かれるということは同じですが、事務局から御説明のあったように、前回とは少し違った進め方で行います。

前回は、ワールドカフェという手法でワークショップを行い、皆さんがテーブルを移りながら、御意見を出していただくというやり方でしたが、今回はテーブルを移動しな

いでワークショップを進めていきます。

いろいろな意見を出して、それに対する意見をまた書いて貼っていくという作業は、前回と共通しております。今回は前半で付箋を出していき、後半では付箋を目の前にして、どうグルーピングしていくか、どうまとめて意見として集約していくかというような、二段構えで進めるというところが前回と違うところかなと考えています。

資料4は、前回のワークショップ成果を踏まえた上で、テーマ①～③を設定いたしました。

皆さんからワークショップの進め方に対する御質問や御提案が何かありましたら伺いたいと思いますがよろしいでしょうか。

資料5のスライド23ページに留意事項が掲載されています。ワークショップでは、自分ばかり話をしませんがということもありますけれど、やっぱりそれぞれ皆さんが積極的に発言し、付箋をたくさん書くということが一番基本でございますので、よろしくお願いします。

今日、お手元に配布されている席次表のお名前のところにアルファベットが書いてあります。これがグループ分けとなっています。それぞれのテーブルのオーナーというかファシリテーター役を私から指名させていただければと思っております。

まずAテーブルは、私がテーブルオーナーを務めさせていただいて、Bのテーブルは、前回もやっていただきましたけれど、鈴木委員にお願いできればと思っております。Cのテーブルは、大木委員にテーブルオーナーをしていただければと思っております。鈴木さん、大木さん、お願いできますでしょうか。

○大木委員、鈴木委員

はい。

○篠崎委員長

では、よろしくお願いいたします。

最後に御質問、御意見ありましたら伺いますが、いかがでしょうか。

では、ワークショップに移りたいと思いますが、前半の意見を出す時間が25分、後半、休憩を挟んで25分というところで、かなり短いタイトな時間ですので、事務局でもタイムキーパーをやっていただければと思います。

では早速ですが、ワークショップを始めたいと思います。それぞれのテーブルに御移動いただければと思います。

《ワークショップ開始》

《途中5分休憩》

《ワークショップ再開》

《ワークショップ終了》

○篠崎委員長

各テーブルのオーナーは、発表を2分ぐらいにまとめていただければと思います。グループごとに説明したら皆さんから御質問、御意見を受けて、3グループすべての発表が終わったらまた全体の御意見、御質問をいただければと思います。

では、Aグループから発表します。意見はいろいろ出たのですが、活動内容とか年数とか規模とかは、きっと関係が無いのではないかみたいな意見がありました。

最初は多分、個人とか小グループの興味とか趣味とかから始まって、それがだんだん広がっていく中で、地域とか他の人のためになる活動なのか、そこが市民活動と言われるものになる段階なのではないかという意見が出ました。

それが趣味でずっと続くところと市民活動と呼ばれるようなものと違う世界になっていくんじゃないかというわけで、その時最初には、やっぱりみんなが集まって活動する場所とか、或いはこんなことをやりたいんだけど、そういうことをやっているグループは無いのかなという、調べるような情報提供というのは、まずあるなという意見がありました。

特に、場所というのはやっぱり大事だという話からだんだん広がっていく中で、人と地域の繋がりが広まっていったり、愛着が深まっていったりして、活動が巣立っていく。それがやっぱり活動の持続性みたいに繋がっていったら、活動が定着していくのではないかと思います。

その中で、当然自分たちは、こんなことをやっていますよということをみんなに伝える発信機能をサポートしてもらい必要もあるし、自分達で資金を出すところもあるけれど、お金もかかるので、もしかしたら部分的にはサポートしてもらいが必要かもしれないので、いろいろな専門的なことも出てきます。

例えば情報とかそういうものをうまく手に入れられると良いなと思います。ちょっと今回は届かなかったんですけども、そういう活動を最初からやっている人じゃなくて、新しく人が入っていったら、持続していくにはどうしたらいいのかは、まだイメージ出来なかったところがあります。

まとめると、それぞれの段階で、最初スタートして広がって、定着して、その定着した後にはいかに持続していくか。その三つの段階に合わせたサポートを明確に作ったほうが良いかなとか、そういうのに合わせているんなお金や人や物や情報のメニューをちゃんと見せ

るように作っていくと良いんじゃないかというお話が出ました。

御質問いかがでしょうか。

では続いて、Bグループよろしく申し上げます。

○鈴木委員

まず、市民活動とはというところなのですが、我々の班で最初に出たのは、さいたま市さんには恐縮ですが、市の定義する協働が固いという意見がありました。地域の課題解決に向けてというところがやはりすごく重たく、むしろ例えば、生け花の会とか、落語の会とかそういう趣味の会があったとして、皆さん楽しんでやっているうちに、じゃあ老人ホームでやりましょうとか、どこかでやりましょうとなったら、それは地域貢献になるわけで、最初から地域の課題を解決するためにみたいなのは、すごく固いなという意見がありました。

したがって市民活動は、あくまで市民が楽しんで活動して、ニコニコしている情景、スタートは趣味でも良いんじゃないかということです。そこでは課題解決が前提、入口ではなくて、そういう活動のサポートしてもらい、それが広がっていったら、結果、市民が地域に貢献することになりますねとなるので、市役所に対する期待としては、市民が楽しんでいる姿を広く世間、世界に伝えてもらいたいと思います。

新しいメディアは、若者だとTikTokとかYouTubeとかで、紙の広報紙を配ってもほとんど誰も見ていないですよね。やっぱりその世代ごとにアピールするような広報媒体を使って、アピールしてもらいたいと思います。

そのためには、やっぱり市役所の方もちょっとリスクを負うかもしれないですが、セキュリティを過剰に気にするのではなく、リスクを取ってでもそういうところに出ていかないと広報にならないんじゃないかという意見がありました。

地元の学校には、市の広報などの情報が全然回ってきません。住民には届いているけれど、学校とか大学には来ていません。そのため、地域のことを学生が知らないということがあるので、学校と市民をつなぐ役割を担っていただきたいという意見がありました。

テーマの2番に関しては、市民活動の意義というのが、市役所と市民とではやはりギャップがあると思います。市役所は何か仕事をしなければということがあるかもしれないが、一方市民は豊かに生き生きとした生活を仲間とともに送りたいからやっているのだから、それをサポートしていただくようだと良いねという意見でした。

テーマの3点目の対象や活動範囲をより広げていくためには、さきほど述べた広報の問題もありますし、例えばこういう会の後で、飲み会とかお茶会などをもっとやったら良いと思います。

やっぱりこれで皆さん、「さあ、さようなら」だとそこまでなので、最近うるさいということもわかりますが、かつては役所の方も市民や企業の人たちと飲み会をしていたと思います。そこを乗り越えて、会費制で良いので、そういう場で自由な話をして、仕事の範囲を超えてやることで本当の交流になるのではということです。

クラウドファンディングの手続きとか、情報提供に関しては、県の方でやっている部分もあるので、その辺をより丁寧にしていただけるとありがたいという話もありました。

○篠崎委員長

皆様から御意見、御質問いかがでしょうか。

積極的な御提案で、良いところを拾って、着々とやろうみたいな強いメッセージを感じました。一旦よろしいでしょうか。

最後〇テーブルお願いします。

○大木委員

市民活動について、市の発展のためということで少し固く書いているのですが、何よりも市民の方たちが住みやすいとか、そういう場づくり自体を含めた市の発展というところで、市民が主役になってやる活動というのが市民活動じゃないかという話をしました。

そのために市に対しては、団体同士の交流の場だったりとか、あとはフィールドとしての活動する場というのが含まれているんですけど、その場の提供だったりとか、あとは情報を取りまとめるということで、団体の活動とかをまとめるデータベースみたいなものをまとめてもらって、皆さんも書いていますが、最終的には広報して欲しいよねという話をしました。

テーマの2番目について、そもそもここで言っている市民活動は、1人ではないと思うんですよね。1人では出来ないこととかが、人が集まることによって団体として出来るんだよねと考えると、参加者が増えれば、当然活動の深さとか広さとかも広げられるから、解決力もアップするよねみたいな話をしました。

そこで地元の良さを発見するというのが、すごく大事になってくるんじゃないかというところを意義として挙げさせていただきました。そのためには、繰り返しになるのですが、情報を取りまとめたりとか、あとは相談サポートということで、前期の委員会から言われていることなんですけれども、継続して伴走して、いろいろ市からもサポートしてもらいたいよねということで、知っている人が関わってくれるのが大事だよねというところを話しました。

まとめると、やっぱり場や情報をまとめたプラットフォームを作って、市としての役割を担って欲しいよねということと、市を超えた協働ということもあると思います。

今どきWeb上であれば、市は越境しちゃいますし、市を超えた枠組で活動してほしいよねということと、ここにはまだ出てきてないんですけど、当初はお金って大事じゃないですか。そういう時に市を超えて、ふるさと納税とか他県からもどンドン集めてくれるような活動っていうのが発信できればお金が集まってきて、それを最終的に還元して市の発展になるよねというところで言うと、そういったところも考えてやっていく必要があるんじゃないかということでまとめさせていただきました。

○篠崎委員長

この委員会もそうですけれども、こういう活動ができる枠組みにもたれかかっちゃう、安住すると、どうも良くないんじゃないかみたいなお話がBもCも出てきて、その辺は皆さんかなり意識としてあるのかなと感じました。

他のグループの方から御質問、御意見あればいかがでしょうか。A、B、Cそれぞれ被るところもあり、被らないところもちろんあるんですけど、結構被るところがあって、それはやっぱり実際に普段活動している方々の共通の意識としてあるのではないかと思います。

それをどういうふうに進めていくかというところで、少しA、B、Cのところそれぞれまたちょっと味つけの違い提案があったかなと思います。でも、それぞれのところで、「それ良いな」というのがあって、実現するかどうかは、まだこれからいろいろあるんですけども、ぜひ提言として入れたほうが良いなという話がたくさんあって、すごく良いなと思いました。

5分ぐらいレビューというか、みんなでワークショップの成果を見る時間を取れますか。

○事務局

はい。

○篠崎委員長

今はテーブルオーナーからの話だけなので、ワークシートをまとめたものを見るのも良いし、模造紙を見るだけでも結構です。皆さんで意見交換までいかないかもしれませんが、感想を言い合うみたいな時間を5分ぐらい取れればと思いますがいかがでしょうか。よろしいですか。

《5分間、他グループのワークショップ成果を確認》

○篠崎委員長

非常に有益な反省会でした。ありがとうございます。

事務局から事務連絡をお願いします。

3 その他

○事務局

《事務連絡》

4 閉会

○篠崎委員長

非常に短い時間でしたが、濃密なワークショップが出来てとても良かったと思います。

以上で本日の委員会は終了とします。長時間にわたりお疲れ様でした。また次回もよろしくお願いいたします。